

# NPO 法人 わっか

## 月次報告書

# 23



だけれども、まるごと受けとめられる社会をつくる

わかっかは、だけれども、まるごと受けとめられる社会を目指して活動を行う団体です。

子どもを取り巻く環境について

子どもたちは、思うがままに過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が  
少なくなっています。いまの子どもたちは、自分では変えることができない

社会環境や大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、

まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。

大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、

子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、

さらには、地域社会においても、

その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。

また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り

仲間も時間も空間もなくなりつつあります。

「わかっか」は、2014年3月から活動をおこなっています。

活動当初は、月に1回冒険遊び場を、びわ湖のほとりで行っていました。

遊び場に来てくださる方の声に応えたくて2015年7月から、古民家の開放をはじめました。

毎週月曜日の放課後、日曜日は月に1、2回開けることから始めた古民家開放は

わかっかを通じて出会った人の声に応えるように、活動の幅を広げています。

# 第二十三号 目次



こどもたちがわっかですごくしているか

4

放課後児童クラブ さかつこクラブ

5

決めたくないこと 佐藤真紀

6

活動を自粛する中で動くこと

7

## 事業報告

月ようわっか

8

平日わっか

9

かめラボ

10

日ようわっか

11

9月・10月にいただいたご寄付

12

編集後記

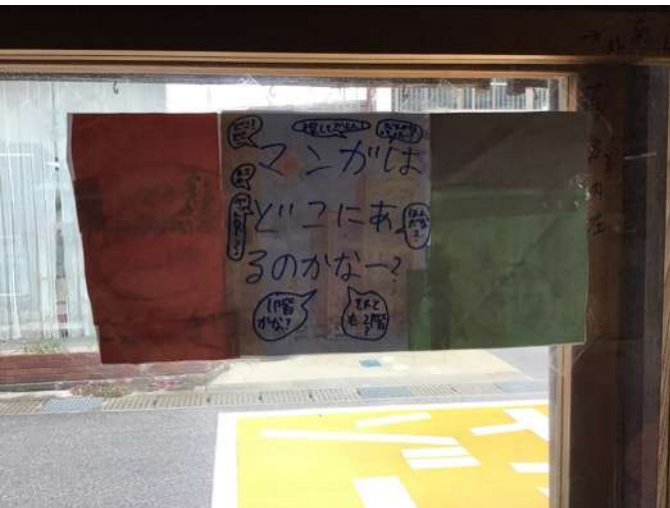
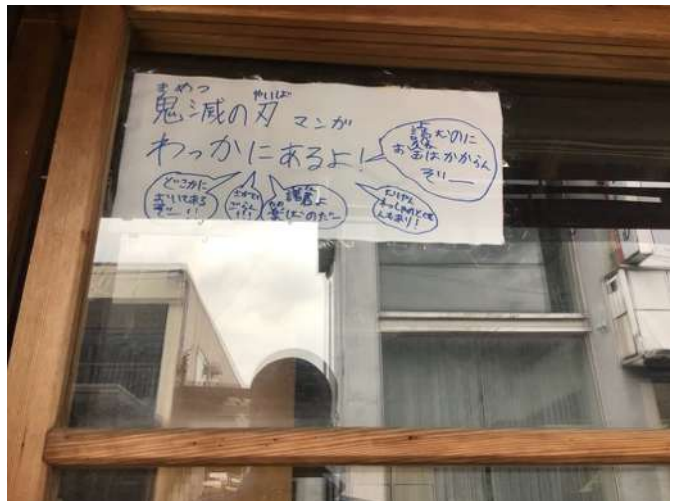
13

マンスリーサポーターのご案内

14



子どもたちが、  
わっかでどう  
すごしているか。



「鬼滅の刃ないの」と下校途中の少年が、言った。

「ごめんないわ」と応えてすぐに、

そうだよな、いまは鬼滅の刃だよなと思

わっかにもあればいいなと思った。

しばらくして、わっかの常連の少年が

鬼滅の刃を寄付してくれた。

「これ、わっかに置いて」と言って、

一緒に本棚に置いた。

置いた後に、机の上で何かを書き始めた。

何を書いているのかは聞かずに、

気にしつつも気にしていないみたい

微妙な時間をすごす。

少年は、立ち上がり、道路に面したガラス窓に

紙をはり始める。「何貼ったん？」と尋ねると、

「わっかに来る子や、前を通る人が、鬼滅の刃が

あることを気付くようにした」と教えてくれる。

わっかには、いま鬼滅の刃があります。

よかったら、開いているときに読みにきてください。

(だいのすけ)

# 放課後児童クラブ さかっこクラブ



さかっこクラブは児童クラブだけど、居場所づくりにもなっている。それは、確かにそうで、色んな子達と互いに等身大で向き合っている。どこかで見かけても、友達と挨拶を交わす感じで声を掛け合う。そんな関係でいられることが、ボクにとっても心地がいい。大人は一つの人生のモデルかもしれないけども、その子にとっての正解や答えに必ずしもなるわけではない。私達は、彼らが生きるこの先の一つの選択肢でしかないのだ。だから、偉そうにするわけでもなく、説教するわけでもなく、分かったようなことをいうわけでもなく接していればいいと思っっている。

ただ、これだけ毎日共に過ごすからこそ、これだけは伝えておきたいと思うことはある。ボクは、弱い者いじめだけは許さない。自分よりも何かできないことがあって困っている子がいて、その様子を笑い、更に困らせようとするのは絶対許せない。強がって生きたいヤツがそうやって生きるのは勝手だけでも、それに他人を巻き込んで犠牲にするなんてもつてのほかだ。

こうやって言うと、一部の悪ふざけする子だけの話にも聞こえてくるが、そうやってして人を傷つけることは、実は誰にだってある。自分の振るまいが人を傷つけてしまうことは、実はよくある。しかも、そういう時の自分は悪いことをした自覚がないから困りものだ。周りの人がどう接すると傷つくのか、それははっきり言って、自身では分かりかねる。だからこそ、まず、そうであることを自覚することが大切だと思う。自覚して、もし、傷つけたことがわかれば、素直に謝るしかないのかなと思う。それが難しいところもあるけど。

子ども達と接するとき、そんなことも日々考えながら接している。だから、悪ふざけする子、弱い者いじめするヤツの行為は許せないけど、自分だって普段から人を傷つけているんだから、その子を許すことも大切だと思うようにしている。その行為は許せないけど、その子を見放したり、相手にしなかったり、除け者にしたりはしない。でも、できれば、そういう行為はやめてほしいし、自分もそういう行為に傷ついてきた方だから容認はできない。だから怒るし、叱るし、めちゃくちゃ話す。でも、いつも思う。一方的になってないか、決めつけていないか、自分の勝手な思い込みじゃないかって。

そういうヤツに限って面白い子で、すごく可愛らしいところあったりもして、だから、自分を貶めるような行為はほしくないと思う。そういう行為は人を貶めているのではなくて、自分自身を貶めていると思うから。

# 決めたくなくなりたい

佐藤真紀

先月に続いて、この場で会えているならば僕はうれしいです。

生活をしている中で苦しいなど感じるときはありますか？毎日が苦しい、全部が苦しいっていうこともあるかもしれない。今月は僕の苦しさの中から、ふたつを取り出して話してみたいと思う。

坂田小や米原小だけじゃなく、どこの小学校、中学校へいっても「女かと思った」と言われることがある。服装はなるべく男性向けにしているつもりではあったんだけどね。今でもよくいわれるし、昔からそうだったんだけど、どちらでもいいじゃないと言いつ返したいのが本当のところだけど、どうやら社会はどちらかに確定させたがるものらしいし、確定をさせないと不安になるらしい。

それは、そうしたジェンダーといったことだけじゃなく、働き方にしても同じことがいえるんだ。よく「職業はなに？」ときかれるんだけど、わかを含めて関わっている団体だけでの法人あるし、それぞれの立ち位置も違う。そして、僕自身の仕事もあるし、大学院生といった面もあわせもっているんだけど、周りには「結局なにやってるの？」と、なにかひとつの属性に決めたいがみたいだ。ふたつとも説明するのがちょっと面倒くさい。僕にはそうしたときに「まきはまきじゃん」と肯定してくれる存在が複数いるから、なんとか保っていられるんだよね。

みなさんは「確定させたくないこと」ってありますか？例えば、学校へ行く、行かないであったり、高校へ行く、行かない、その後の進学をする、しないといったライフステージといったものだけでなく、何が好きで、何が嫌いといったライフスタイルといったもの。どんな服装をするか、しないかなんてのもあるよね。それらはすべて誰かに決められるものではなく、自分自身で決めていくものなんだけれど、決めたくないときもあるよね。その決めたくないときに決めなくてもいい時間が保障されるのって、すごく大切な気がするんだよね。けれど、往々にして自分じゃなくって周りが決めてほしいと迫ってくる。そのときって、しんどいよね。

本当は自分のペースで決めたいのに、周りから決めさせられたり、決めることを迫られたり、そうしてどんどん自分のほんとうの気持ちがいぼんでいく。僕は大人だけれど、こうして子どもが子どもらしい時間を過ごすことができなかったり、自分で決めるまで待つてくれなかつたりするのって「子ども時間の搾取」ともいうんだって。

自分で決めるって、ほんとうに大切なことで、周りに反対されたとしても自分で決めたことのほうが結果はどうであれ、満足感が高いなんてデータもあるんだよ。だからこそ、僕たちはみんなが自分で決めるまで待つていたいし、それに対する応援をしたいと思うんだ。

いまはすぐにできる力はないけれど、ひとりひとりが自分で決めるまで待つて「社会」を作っていきたいと思う。ちゃんと待つ大人、ちゃんと待つ社会。

ほんとうは、みんなもつと自由でいいし、しばられなくていい。誰かに決められた生きかたに、自由はない。わかだつて、そんな場所ですよ。

では、また来月。

佐藤真紀さんのプロフィール @19hz(Twitter)

現場から現代社会を思考する/OfficeJUN/大学院生/NE→フリーのソーシャルワーカー/地域:東京,岐阜,滋賀/  
領域:地方自治,若者,子ども,虐待,生活困窮,学校,女性,LGBTQ/元学校の中の人

# 活動を自粛する中で動くこと

(2020年6月のブログより)

## あすか

繋がっている  
若者にとって

社会への疑心が他人へとなり

すれ違うヒト、お店の販売員、

すべてにおいての疑心が不安へとつながり

扉がさらに重く厚くなっていく

市民活動を自粛していく中

こども食堂も一旦お休み

そんな中でもできること

私にできること

私が彼らにできたこと

ごはんを作ること

それは

お弁当を届けることにつながった

お弁当を届けた時

玄関の扉が開く

それは、彼らの

心の扉が開くかのように

緊張する瞬間である

生きづらさを抱える彼らにとって

ごはんを届ける事が

更なる生きづらさを抱える事になるのではないか

詰めるおかずが

枷を詰めているように感じ悩みながらも

重く厚い向こうに

微かに

確かに

いのちの鼓動を感じるから

わたしはごはんをつくり続ける



毎週 月よう日 15:30 ～ 20:00

子ども **73** 名 ( **55** 名 ) おとな **15** 名 ( **0** 名 )

( ) 内の人数がご飯を食べた方持ち帰りも含む

## 月ようわっか

毎週月よう日の放課後に必ずひらかれる場です。参加費無料・申込不要。カリキュラムやプログラムは一切なしで「ルールがない」がルールです。子どものみちくさできる場所、子どものたまり場として場をひらいています。

9月7日 子ども **12** 名 ( **11** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー： ごはん、ほうれん草の味噌汁、もやしとニラのナムル、チキンステーキ

9月14日 子ども **5** 名 ( **4** 名 ) 大人 **4** 名 ( **0** 名 )

メニュー： ご飯、小松菜の味噌汁、鶏肉のスパイス焼き、甘辛焼き、小松菜のおひたし、マーボー茄子

9月21日 (お休み)

9月28日 子ども **17** 名 ( **11** 名 ) 大人 **1** 名 ( **0** 名 )

メニュー： ご飯、すき焼き、プリン



10月5日 子ども **12** 名 ( **8** 名 ) 大人 **2** 名 ( **0** 名 )

メニュー： 肉味噌炒め丼、わかめと油揚げのお味噌汁



10月12日 子ども **11** 名 ( **8** 名 ) 大人 **3** 名 ( **0** 名 )

メニュー： ご飯、白菜の味噌汁、根菜の煮物、焼き鮭



10月19日 子ども **9** 名 ( **8** 名 ) 大人 **2** 名 ( **0** 名 )

メニュー： サツマイモご飯、冬野菜の味噌汁、かぼちゃのそぼろ煮、サゴシの塩焼き、ちくわともやしの炒め物

10月26日 子ども **10** 名 ( **5** 名 ) 大人 **2** 名 ( **0** 名 )

メニュー： ご飯、サツマイモの天ぷら、豚ニラ炒め、ネギとえのきの味噌汁



## 平日わっか

毎週火曜日～金요일に開いている場です。参加費無料・申込不要。月曜日と同じように、カリキュラムやプログラムは一切なしで、ただ開いている場です。そんな場所に集う人たちと、ゆったりとした時間を過ごしています。



平日の昼間に開けています。誰も来ない日もあります。管理人のおばあちゃんが、ふらっと立ち寄って「あんた、一人か？」と話しかけてくれるだけが、その日の人との唯一の会話ということもあります。

そうかと思えば、たくさんの方がくることもあります。たくさんの方がくれば、それは嬉しい。誰も来なければ寂しいけれど、それもそれでいいかなと思います。以前、開いていない時間も含めて、わっかだと思う、というようになことを書きましたが、あらためて、そう思います。

ここにきていない時も思い出してほしいなんて、厚かましいこととおもいませんが、ときどき、来なくっても思い出してくれたらいいなと思います。

それで十分だと思います。

(だいのすけ)

## カメラボ

子どもたちの「〇〇したい」にできる限り全力で応える場。ある少年は「教員の人事異動を予想するプログラムをつくりたい」と言いました。いまは、姫路城が好きな少年が、マインクラフトで姫路城を作成するのを応援しています。



みんな、それぞれしたいことをしています。

ある少年は、わっかでWi-FiにつながるだSwitchや、フォートナイトかな？荒野行動かな？を、イヤホンでしゃべりながらしています。

また、ある少年は、学校でギターを弾くからと、ここにきている若者からギターを教えてもらっています。「えー面倒くさい」と言いながらも、若者もきちんと横で、少年に教えています。

また、ある少年は、大好きな野球のゲームを時間を決めて遊んで、その後、タブレットで勉強をしています。

そして、最後はみんなでご飯を食べる。そのときも、無理に一緒に食べるのではなくって、食べたい人だけで食べます。

こうやって時間を一緒に過ごすことを重ねられることが、いいなって思います。

(だいのすけ)



## 日ようわっか

月に1回程度、お昼に古民家を開放しています。お休みの日なので、ここに、くるのは小学校高学年まで、親子連れが中心です。親子できていた子が大きくなったら一人で「月ようわっか」にくるといふこともあります。





## 9月と10月に頂いたご寄付

---

### 物品でのご寄付 **11**名(団体)

本、封筒・インクジェット・クリアファイル、封筒、サツマイモ、お米、栗餅米(青岸寺)、なわとび(こくみん共済coop)、おやつ(おてらおやつクラブ) JA(商品券)、平和堂(商品券)

### マンスリーサポーター **25**名

(今月あらたに5名の方がサポートくださいました)

大溪麻紀子、後藤基志、マコトヤ、佐藤真紀、佐藤桃子、廣部奈緒美、前田諭、藤澤彰祐  
石田智子、佐藤笑代、三輪恵美、南出吉祥、柴原隼、鈴木愛子、荒巻りか、吉田尚子、永峰美佳  
(敬称略)

都度ご寄付 **1**名 わっかの募金箱にご寄付いただきました。

### 助成・補助団体、企業 **13**団体

米原市、独立行政法人 福祉医療機構、リタワークス株式会社、真如苑、  
社会福祉法人 米原市社会福祉協議会、公益財団法人 信頼資本財団  
一般社団法人 全国食支援活動協力会、公益財団法人 さわやか福祉財団  
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会、NPO 法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ  
いっぽまえくら部、タノシニア合同会社、マコトヤ(敬称略 2020.11.4 現在)

## 9月と10月の視察

---

### 岐阜大学 **13**名





## 編集後記

きょう、伊吹山が初冠雪を迎えました。古民家にもファンヒーターを置いてあります。築二〇〇年の古民家はとっっても冷えます。冷えるというか、隙間風だらけです。

さらに、子どもたちが部屋の出入りを頻繁にするので、どんなに温めても、ひやっとした風が室内に入ってきます。

「しめてー」と言ってもみんな遊びに夢中で忘れてしまうので、最近はやわらないようにしています。ぼくが言うことで子どもたちは真似をするのが、ちょっと嫌だなあって思ったんです。本人たちは気にしていないかもしれないです。

だから、たいがい隙間風が吹き込むことになるので、室内でも外と同じ格好で過ごしています。

あつという間に冬になったんだなと思いつつ、編集をしています。

今月は9月と10月をまとめて報告書にしました。これまでも、お送りする情報が1ヶ月遅れていることは気になりつつも、まずは報告書の形をきちんと作ることを優先していました。

来月は一二月の報告を一二月初旬にお届けします。みなさま、寒くなりましたが、お体にはご自愛ください。

(だいのすけ)





マンスリーサポーターは  
**24名**になりました。  
引き続き、ご支援お願いいたします。

古民家を毎日あけるのも、こうやって報告書を作成できるのも  
すべて、みなさまの寄付による支えのおかげです。  
ぜひ、みなさまの寄付でこれからも活動を支えてください。

<https://www.congrant.com/project/wacca/724>

↑マンスリーサポーターご登録 URL

マンスリーサポーターは先月から5名増えました、本当にありがとうございます！  
一緒に、子どもたちが『ゆったりとすごせる』場所をつくっていきましょう！

団体名	NPO 法人 わっか
住所	〒521-0012 滋賀県米原市米原 178-5
電話	070-1803-1059 (代表)
メール	wacca235@gmail.com
ホームページ	<a href="https://npo-wacca.org">https://npo-wacca.org</a>
Facebook ページ	こどもと大人の居場所 わっか
Twitter	アカウント名 @NpoWacca
Youtube	アカウント名 NPO 法人わっか振角大祐